

顕微鏡で「みる」小さな生き物の体のつくり ～大池の小さな生き物をつめて～



アップとルーズで観察する



国語の時間、「アップとルーズで伝える」の学習で、アップで見るよさとルーズで見るよさのそれぞれを感じた子どもたちは、その見方を使って、自然体験園の生き物の観察を行いました。「桑の実、葉っぱの間に実ができるんだなって気づいた。アップだと気づくことがあるんだって思った。」や「アップとルーズでやってアップだと細かい毛が生えているとか細かい糸があるってわかってよかった。ルーズだとアップでは分からない全体像が分かってよかった。」とアップとルーズで観察したからこそ見えてきた発見やその良さを感じていました。そんな子どもたちは、副校長先生のお話で顕微鏡について知りました。顕微鏡でアップされた花粉の映像が紹介されると「おしりみたいだ」や「ドリアンみたい」と、それらの形のおもしろさを自分の知っている形とつなげて興味深そうにみていました。「電子顕微鏡や走査顕微鏡ってすごい。」や「顕微鏡でいろいろみてみたい」と顕微鏡に興味をもった子どもたちに、理科室にある顕微鏡を紹介しました。次の日の図書館の時間、KくんとMさんは、「先生、顕微鏡の使い方のってるんだけど。みんなにも教えたい。」と図鑑を担任まで持ってきました。

「何か動いた。今動いた」



KくんとMさんは、図書館で見つけた顕微鏡の使い方をクラスみんなに紹介しました。確認した使い方を参考にしながら、顕微鏡でいろいろなものを観察することにしました。消しゴムや鉛筆の芯、定規など筆箱の中にあるものやガーゼやトイレットペーパー、食塩、ほこりなど理科室にあるものなど、それぞれが思い思いのものを観察しました。そんな中、Mさんは、「大池の水を見たい」と言って、スポットを片手に外へと向かっていきました。お目当ての大池の水をスライドガラスの上に乗せ、顕微鏡でのぞいてみました。すると、「何か動いた。今動いた」とMさんが驚きの声を上げました。周りの子どもたちがその声に引き寄せられるかのように集まってきます。担任もそれにつられてやってきて、Mさんの顕微鏡をのぞきました。「おっ、おっ。今動いた」と言うと、Mさんの顕微鏡をみようとして行列ができました。「密にならるようにしっかり並んで。そうしないと見れないよ。」というMさんの誘導のもと、子どもたちは大池の小さな生き物の存在を知りました。

次の時間、「大いけの水をさいしゅしただけなのにせいぶつがいてビックリしました。」のMさんの振り返りから、大池の水の中の小さな生き物を観察しました。ビーカーの中にいる小さな生き物がひよこひよここと泳いでいるのが肉眼でもわかります。それを顕微鏡でみようとして子どもたちは動き出していきました。「手みたいなので、時計回りにくるくる回って泳いでる。」「おしりから何かでてるんだけど。」「貝殻みたいなものに入って、触ってみるとかたい。」「上の方に心臓？がある。」と生き物の動きや体のつくりについていくつも発見しました。さらに、「何を食べているんだろう？そもそも口はどこ？」と小さな生き物の体のつくりや生態について興味がつながっていきました。次はどんな発見があるのでしょうか。楽しみです。

